

心不全パンデミックについて

心不全は、心臓が悪いために息切れやむくみが起こり、だんだん悪くなって命を縮めるという病気です。一方、新型コロナウイルス感染症のまん延により「パンデミック」が感染症の世界的な大流行を表す言葉であることがよく知られるようになりました。

それでは、感染症ではない心不全に対して、なぜ「心不全パンデミック」という言葉が使われるようになったのでしょうか。

現在、心不全を含む心疾患は日本人の死亡原因の第2位で（第1位はがん）、心不全と診断されてから5年間生きられる人も半数しかいません。高齢化社会に伴い、今後急速に非常に多くの人々が心不全にかかる時代が来ると予想されていることから、最大限の危機感を表す意味で「心不全パンデミック」という言葉が使われるようになりました。心不全は心筋梗塞、心臓弁膜症、不整脈、心筋症など全ての心疾患がその原因になり、発症すると一旦良くなっても再び悪くなり、最後は死に至ります。また、高血圧症や糖尿病、腎不全といった病気は心不全の発症や進行に大きな影響を及ぼします。心不全に陥らないように日ごろから高血圧症や糖尿病、腎不全の予防や治療を心掛け、ご自身の身を守るように努めてください。

令和4年9月

林 孝浩